

ノアザミポスト

S E R A Y U M E K O U E N

ヒョウモンモドキのためのノアザミを持参された方は、この容器にお入れください。責任をもって千丫ウの飼育に使わせていただきます。

ヒョウモンモドキ（豹紋擬）

レッドデータブックにおいて絶滅危惧1A類※1に選定され、「種の保存法」で国内希少種※2に指定されている絶滅のおそれが最も高い千丫ウのひとつです。

かつては本州各地の草原や湿地、水田脇などに生息していましたが、開発や基盤整備などによる環境の変化により生息地は激減し、今では三原市と世羅町の一部に残るだけとなりました。

幼虫の食草はキセルアザミやタムラソウですが、5月下旬から6月にかけての成虫の時期にはノアザミやヒメジョオンなどの蜜を餌にしています。

せら夢公園はヒョウモンモドキ保全地域協議会の一員として生息地の維持や再生に取り組むとともに、生息地で千丫ウが絶滅した場合に備え、ヒョウモンモドキ保護の会と協力して自然観察園に設置した飼育施設で人工飼育に取り組んでいます。

※1 ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種

※2 許可なく捕獲や移動すると罰金刑、懲役刑が科されます。

【写真左下】ヒョウモンモドキのカップル。左がメス、右がオス

標準和名：ヒョウモンモドキ

分類：タテハ千丫ウ科

発生時期：5月下旬～6月下旬

分布：広島県世羅町、三原市

生育環境：キセルアザミが自生する湿原、耕作放棄田

